令和6(2024)年5月22日更新

「学習意欲に関する取組」の紹介（抜粋）

東京未来大学モチベーション研究所

転載禁止

1

東京未来大学モチベーション研究所
Institute for Motivational Studies and Research: IMSAR

- 2011年9月開設　2012年4月より活動開始
- 設立目的
  - モチベーションに関する調査・研究を推進し、社会的な要請に応えるとともに、本学におけるモチベーションに関する教育・研究の充実をはかること
- 活動内容
  （１）モチベーションに関する調査・研究
  （２）研究および調査の成果の発表、刊行物（研究報告・所報）の発行
  （３）研究会、講演会、講習会等の企画および開催
  （４）調査・研究の受託
  （５）その他研究所の目的を達成するために必要な事項

転載禁止

2

墨田区児童・生徒の学習意欲向上に関する取組（続き）

平成27(2015)年度　区内小・中学校での共同研究
- 知能観、学習方略に関する調査、教育実践

平成28(2016)年度　学力意欲測定尺度の開発
- 学習意欲測定尺度開発調査実施
  協力校：区内5中学校
- 知能観、学習方略に関する調査、教育実践
- 保護者向け講座開催

平成29(2017)年度　学習意欲向上を目指す介入研究
- 小１校，中１校を対象に学習意欲向上を目指した介入研究。
- 同取組は翌年他校でも実施。
- 学習意欲測定尺度のフィードバック開始（小中全クラス、放課後チャレンジ教室）
- 保護者向け講座開催

転載禁止

3

墨田区児童・生徒の学習意欲向上に関する取組

平成30(2018)年度　学習意欲測定尺度解説書作成
- 平成28-29年度の結果を受け，学習意欲測定尺度の解説書を作成。
- 学習意欲測定尺度を活用するためのソフト（Excelマクロ）を作成。

平成30(2018)年度　学習意欲の取組の実施・分析
- 平成29年度の介入方法を小1，中１校を対象に実施。対照群はなし。
  対象校：小学校（理科の利用価値），中学校（自己価値）

平成31/令和元(2019)年度　校内研修と尺度測定
- 中学校にて教員向け研修，学習意欲尺度の測定

※2020年度はコロナ禍

令和３(2021)年度　きこえの教室へのサポート
- 小学校内「きこえの教室」の教員に対するアドバイス

転載禁止

4

墨田区児童・生徒の学習意欲向上に関する取組

令和３(2021)年度　学習意欲測定尺度解説動画撮影

・学習意欲測定尺度の解説動画を墨田区立教員向けに配信

令和４(2022)年度　家庭学習への介入研究

・提案型研究として，研究テーマ賛同校を対象に実施。
・家庭学習を自己調整学習の3段階で促すスキルを身につけることを目標とした体験型講座3回の実施と効果測定。
　協力校：中学校1校

令和5(2023)年度　目標設定と学習方略の講座実施

・学校の課題をヒアリングしたうえでテーマ設定。
・目標設定理論，学習方略の観点で体験型講座3回の実施と効果測定。
　対象校：小学校1校

※その他，個別教員による校内研修，保護者・PTA等での講座，すみだSST講師等あり

転載禁止

5

学習にかかわるさまざまな要素

図　学習に関わるさまざまな要素

転載禁止

6

平成28年度　学力意欲測定尺度の開発

- 小学校3校４-6年生、中学校２校１-３年生※に調査し、学習意欲測定尺度を開発
- 内発的動機づけや学習行動に至るプロセスを確認
  ①周囲の人に支えられている、頼られていると感じると、
  ②自分を好きだと感じられるようになったり、自分の決定を信じられるようになり、
  ③「自分は勉強ができる」という自信につながり、
  ④学習や思考を楽しむ気持ちや好奇心による動機づけを高め、
  ⑤自律的な学習を促す。

図　内発的動機づけや学習行動に至るプロセス

※プロセス確認の分析対象者は中学2-3年生

転載禁止

7

平成29年度　学習意欲向上を目指す介入研究

■ 目的
自己肯定感 と 内発的動機づけへの働きかけによる学習意欲促進の効果の検討

■取組内容

①**自己肯定感**…自分が大切にしていると思っていること（**自己価値**）を確認するワーク

②**内発的動機づけ**…授業（理科）で学んだ内容が生活とどのように関係しているか（**課題価値**）を考えるワーク

■対象

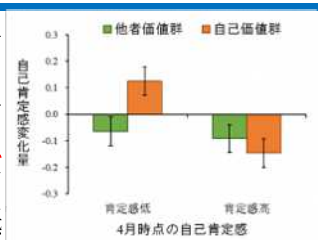
小，中学生

転載禁止

8

平成29年度取組１ 自己肯定感を高める働きかけ 主な結果

- 「自分にとって大切なこと」を考えること（自己価値の確認）には、自己肯定感が元々低い児童・生徒の自己肯定感を高める効果がみられた（右図）。
- 上記のような変化は中学生よりも小学生において顕著に生じていた。中学生になると“失敗”することが増え自己価値の確認だけでは自己肯定感を維持・向上させることが困難である可能性がある。



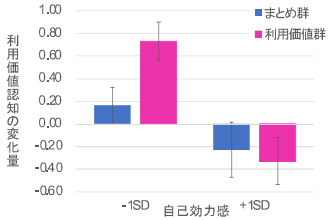
- ３回の調査で自己効力感と自己評価は関連性が見られるものの、自己価値確認の介入による自己効力感の変化は見られなかった。高まった自己肯定感が効力感にまで影響するのには一定の時間がかかるものと思われる。
- 元々自己肯定感の高い児童・生徒に対しては他者受容感からの働きかけを行うなど別の方略を考える必要がある。

転載禁止

9

平成29年度取組２ 内発的動機づけを高める働きかけ 主な結果

- 小学4年生において、事前調査の時点で自己効力感が低かった児童では、学習内容の生活における有用性を考えるワークによって、理科の利用価値の認知が高まった（右図）。また、理科の興味追求行動が維持された。



- 小学5年生及び中学1年生において、事前調査の時点で自己効力感が低かった児童では、学習内容の生活における有用性を考えるワークによって、努力コスト（学習に対する負担感）が低くなった。**一方で、中学2年生において自己効力感が高かった生徒では学習に対する負担感が増えていた。**理科学習に自信のあった生徒は、既に有効な学習方法を確立しており、ワークが負担になったのかもしれない。

転載禁止

10

令和３年度　きこえの教室へのサポート

- 児童のきこえの教室に通級することに対する心理的負担感を減らしたい、きこえの教室以外のことでもよいので自信を持てるものを持ってほしいという教員の要望を受け、知識の提供と複数回の面談により助言を行った。
- 子ども各々が興味のある内容の調べ学習をする中で，きこえの問題解決に関わる学習目標も達成できるようなワークを作成した。
- 調べ学習では，目標を分割し，成功経験を積み重ねられるよう工夫した。

転載禁止

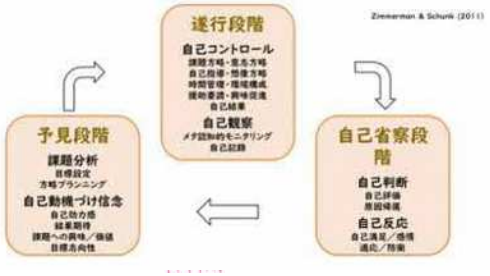
11

令和４年度　家庭学習への介入研究

■目的

中学生を対象とし、家庭学習を自己調整学習の3段階で促すスキルを身につけることを目標とした体験型講座を提案し、その効果について検討する。

自己調整の段階と下位プロセス



転載禁止

12

令和５年度　目標設定と学習方略の講座実施

■目的

学生を対象に目標達成に向けた力の育成と適切な学習方略の獲得をテーマとした体験型講座を提案し，その効果を検討する。講座は目標設定理論（Locke & Latham, 1984　松井・角山訳 1984)に基づく目標設定の仕方と，目標に関わる学習で得られた成果を定着させるのに必要な自己説明（e.g., Chi et al,1994）の学習方略を中心とした構成とする。

■対象

小学4年生50名

■測定項目

・講座実施前（事前）
・講座実施後（事後）

目標設定スキル、学習観、学習方略、
自己効力感、学習意欲、を測定。

■結果の概要

目標達成に向けた計画が適切に立てられるようになること，適応的な学習観が形成されること，内発的動機づけが高まる効果が示された。

転載禁止